



## カメラのリレーで つなぐ！ 記録と記憶の伝承

岩手県立大槌高等学校  
復興研究会



防災まちづくり大賞受賞の際の定点観測班の集合写真

### 1 はじめに

本校は、岩手県上閉伊郡大槌町内にある唯一の高校で、普通科6クラスの小規模校です。平成23年の東日本大震災では、高台にある本校は町内最大の避難所となりました。4月上旬までの約1か月間は避難所運営の人手が足りず、学校職員と生徒が中心となり避難所運営を行いました。津波で壊滅的な被害を被った町民を元気づけることは、「大槌高校から元気を発信すること」と考え、当時の生徒は被災した生徒も多くいる中、率先してボランティア活動に取り組みました。その後、平成25年春、復興にかかわる有志の団体として「大槌高校復興研究会」が設立されました。

現在は、全校の約4割の生徒が加入し、「定点観測・防災班」「キッズステーション班」「他校交流班」「広報班」の4班に分かれ、部活動やほかの研究会と掛け持ちをしながら活動を続けています。

### 2 定点観測とは

定点観測は、大槌町内の約180地点を、年3回、同じ場所・同じ角度から撮影し復興の変化を記録として撮り続けている活動です。平成25年4月より神戸大学近藤民代研究室の学生と共に活動を開始し、また、現在に至るまで大槌町役場の協力を継続的に受けながら活動しています。定点観測は、復興工事が進む中の撮影だったため、当時は町内のさまざまな復興工事に携わる建設会社等の協力をいただき、撮影をしました。その他に、工事現場見学、専門家を交えた町内中心部に多くある湧水やそのそばに生息している希少植物の観



定点観測活動（2016年）



定点観測活動（2021年）

察、語り部活動などを組み合わせて活動をしてきました。

### 3 記録し続けることで

生徒の入学や卒業にともない、毎回撮影する生徒が変わるため、1地点に対して28名の生徒がカメラとカメラのリレーをつなげてきました。生徒が撮影した写真は、本校のHPに掲載しています。また、本校の文化祭では、「定点観測写真展」として毎年開催しており、多くの町民から好評を得ています。写真展は、県外からも要請があり神戸市・岡山市・横浜市・軽井沢町などで開催し、大槌町の

津波の被害と復興状況を報告してきました。

#### 4 防災意識の向上のために

震災から10年以上が経ち、あの当時幼稚園児だった子どもたちが高校に入学しました。現在、震災の記憶がおぼろげな生徒、中にはほぼ覚えていない生徒もいます。津波の恐ろしさを、身をもって経験していない生徒の防災への意識を高めることを目的に、昨年9月の定点観測では、本校職員や卒業生、大槌町役場職員など8名の大人に「語り部」を依頼し観測に同行していただきました。ある高校一年生の生徒は、次のように実施後の感想をしたためていました。「語り部から、当時から常に津波や地震が来たらどこに逃げるのかを家族と話し合っていたと聞いたが、自分たちはあの時していなかった。自分が大人になっても、震災を忘れず、次の世代に伝えていきたいと思った。」大槌の未来を担う高校生の防災意識を高めることにより、将来にわたって災害への危機管理意識の向上につなげることができたと考えています。



東日本大震災発生後、本校に集まる避難者

#### 5 「伝承」の意識

定点観測の活動に参加した生徒にも、「防災」「伝承」の意識が芽生え始め、様々な活動に取り組みました。震災当時小学2年生だった生徒たちは、後世の人々、震災後に生まれた子どもたちに自分の命を守ってもらうため、令和元年に、生徒自身の被災体験を基とした「防災紙芝居」を制作しました。完成



防災紙芝居の発表（2021年）



防災絵本 寄贈のお問い合わせもぜひ。

後、大槌町内の小中学校で読み聞かせの活動を行ったほか、陸前高田市や仙台市などでも発表の機会をいただきました。

その後、コロナ禍でも伝承活動を行うため、「防災紙芝居」の内容を絵本にした「防災絵本」を制作し、生徒が読み聞かせをした音声入りのDVDも同封しました。ある寄贈先からは、「DVDがあることで、全盲の老人でも絵本の内容を楽しむことができた」という感想をいただきました。さらに、令和2年には、定点観測に参加する前と参加後の生徒の心情の変化をテーマとした紙芝居形式のアニメーション動画を生徒が主体となり、制作しました。活動から得た知見や生徒の中に芽生えた様々な思いを胸に、今後も、一人でも多くの人々の命を守るために、防災伝承活動を続けていきたいと考えています。